

平成 25 年度 モンゴル国家統計局との協力事業の報告

当財団は、モンゴル国家統計局（以下、MNSO）との間で、政府統計の分野に関して交流・協力を行うため、2005年9月に3か年の協力協定を締結しました（協定締結の経緯と詳細については、本誌2005年12月号特集「モンゴル国家統計局支援」を参照されたい）。その後、2009年6月及び2012年10月に延長協定を締結し、協力事業を継続・実施してきています。

第8回モンゴル統計セミナーの開催

2013年6月17日～22日の6日間、当財団の視察団が、統計セミナーを開催するとともに、視察及び意見交換を行うため、モンゴルを訪れました。

視察団は、大友 篤先生（元 日本女子大学教授、元 当財団評議員）、堤田成政先生（京都大学大学院地球環境学助成）の2名で構成しました。堤田先生は、「時空間データマイニングによるモンゴル国の家畜分布の推移に関する研究」が、シンフォニカ統計 GIS 研究助成の助成対象研究に選定されており、今回は、同研究のために必要なモンゴル小地域統計データ収集も兼ねて、当財団の訪蒙に参加することとなりました。

統計セミナーは、6月20日、ウランバートルのMNSO庁舎2階会議室において行われ、MNSO職員約30名が聴講しました。最初に、大友先生が小地域統計に関する講義を行い、続いて、堤田先生がモンゴルのSoum（「郡」に相当）レベルのデータを使った自己相関分析の結果を説明し、より小さい地域単位のデータを利用することによる分析の必要性を強調しました。これを受けて、大友先生が、モンゴルにおけるメッシュ統計の導入の必要性とその有用性について解説し、セミナーを締めくくりました。

また、MNSOからは、人口センサス、農業

センサス、畜産統計、SNA、GISの整備状況等の説明を受けました。MNSOでは2010年からGISシステムを導入し、教育省の要請により、Bagh（「村」に相当）レベルのデータを使い、通学圏内の就学年齢期の児童数を算出したとのことでした。

【ウランバートル統計セミナー】

開催日：2013年6月20日（木）

場所：ウランバートル

MNSO 庁舎 2 階会議室

講義内容：

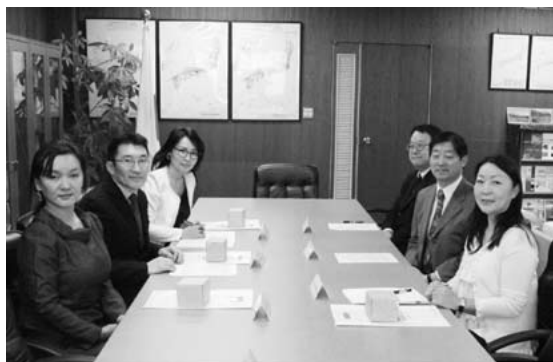
1. 小地域統計について
2. Open GeoDa によるクラスター分析
3. モンゴルにおける地域メッシュ統計の導入と利用

（講師 1・3：大友 篤先生、2：堤田成政先生）

MNSO 統計視察団の来日、国内研修等

2013年12月16日～23日の1週間、モンゴルより、バフイト・ハビ バヤンウルギ県統計課長及びエンフトゥヤ・ナツァグドルジ ウランバートル市バヤンズルフ地区統計課長並びにエルデネスブド・オユンバートル MNSO 国際関係協力部職員の3名が来日しました。

当財団における研修では、GISの多様な利用可能性やオープンデータなど最新動向について



MNSO 統計視察団 来日
2013年12月16日～23日



左上：総務省統計局 須江局長を表敬訪問
 左中：当財団会議室でアットホームな送別会
 左下：伊藤理事長と視察団
 左からエンフトゥヤ・ナツアグドルジ氏、伊藤理事長、エルデネスブド・オウンバートル氏、パフィット・ハビ氏
 右上：統計資料館で歴史的な集計機器の説明を受ける
 右下：クリスマスツリーの前でほっと一息



の講義等を行いました。視察団は熱心に聞き入り、研修後には様々な質疑応答が行われました。

統計視察団はこのほか、総務省統計局、総務省政策統括官(統計基準担当)、(獨)統計センター、統計資料館、統計研修所、明治大学の各所を訪問し、視察及び意見交換を行いました。また、統計数理研究所で行われていた政府統計マイクロデータ・ラボラトリー国際ワークショップ(当

財団の伊藤理事長が実質的オーガナイザー。モンゴルを含むアジア10か国の家計調査のマイクロデータの整備と有効活用を研究)を見学しました。

本事業においては、日本の関係諸機関に多大なご協力を賜りましたことを、ここに深く感謝申し上げます。